

MARUSEN

SPORTS & CULTURE

NO. 7

平成22年度



財団法人
マルセンスポーツ・文化振興財団

CONTENTS

ごあいさつ	1
財団法人の概要	2
役員・評議員名簿	4
平成22年度事業報告	5
第1章 助成事業関係	
1 スポーツ活動に対する助成	5
2 文化活動に対する助成	6
3 指定寄付	6
第2章 表彰事業関係	
1 マルセン栄誉大賞	7
2 マルセン大賞	7
3 マルセン賞	8
第3章 イベントの開催	
1 スポーツ	9
2 文化	9
第4章 スポーツ・文化に関する広報・啓発事業	
1 ホームページの管理	10
2 機関誌「マルセン」7号の発刊	10
3 スポーツ・文化活動助成事業の広報	10
第5章 ホットコーナー	
2010年岡山勢が全国舞台の女子駅伝で3冠達成	11
青春のひとときを岡山(日生)で過ごしたSF作家の眉村卓さん	13
第6章 贈呈式	15
第7章 受賞者からのひとこと	
マルセン栄誉大賞	16
マルセンスポーツ大賞	17
マルセン文化大賞	18
マルセンスポーツ賞	19
マルセン文化賞	22
資料	
1 事業の記録	25
2 平成21年度収支計算書	30

表紙写真
第94回院展 日本美術院賞 受賞作品「不二一元」
井手 康人

裏表紙写真
第41回日展 第一科(日本画)特選 受賞作品「ゆらり」
諸星 美喜

ごあいさつ

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団は、岡山県のスポーツ・文化の振興発展と県民の皆さまが健康で豊かな心をもって生活できる環境・社会の実現を願い平成16年2月に設立されました。お陰さまをもちまして7年目を迎えることができました。このことは、皆様方の温かいお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。

さて、昨年梅雨明け以降、「30年に一度の異常気象」と言われた暑い日々が続きました。今冬は例年になく厳しい寒い日がありました。また、世の中の景気は、一昨年世界的不況の影響から脱却できずデフレ状態が続き経済の閉塞感が否めない事態が続いております。

このような中、7月にスポーツ・文化活動に少しでもお役に立てますよう活動助成事業や表彰事業を行い、さらに8月には、スポーツ少年団・子ども会を含む小学生を対象にした「マルセン少年ソフトボール教室」を開催いたしました。また、秋には、日頃の文化芸術活動を発表し、交流を深め、魅力ある郷土の文化を県内外に広く情報発信する祭典「第25回国民文化祭・おかやま2010」が開催され、当初予定の110万人を超える約160万人もの方々が参加されたようでございます。当財団も微力ながらも県民の皆さまに少しでも明るく元気にお過ごしいただけるよう応援させていただきましてありがとうございます。

このたび、活動の記録として、「マルセン」第7号の発刊の運びとなりました。どうぞご高覧のうえご指摘を賜れば幸いに存じます。ご協力を賜りました関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

今後とも地域の皆さまのスポーツ・文化活動に貢献できますよう一層の努力を重ねてまいりますので、引き続きご指導及びご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年3月

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団
理事長 **千原 多美子**

財団法人の概要

I 概要

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団は、平成16年2月20日付けで岡山県教育委員会の許可を得て設立されました。

当財団は、寄附行為第3条で、その目的を「岡山県のスポーツ・文化の振興発展を図るとともに県民が健康で豊かな心を持って生活できる環境・社会の実現」と規定し、その目的達成のため、次の5項目

- 1 スポーツ・文化活動に対する助成
- 2 スポーツ・文化活動に対する表彰
- 3 スポーツ・文化に関するイベントの開催
- 4 スポーツ・文化に関する広報啓発育成事業
- 5 その他目的を達成するために必要な事業
を定め活動を開始しております。

II 沿革

平成16年 2月27日	財団設立。岡山市富町2丁目4番4号に事務所を設置
平成16年 3月26日	初代理事長に千原多美子就任
平成16年12月14日	第1回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成16年12月23日	第1回スポーツイベント協賛 第23回山陽女子ロードレース大会
平成17年 2月28日	晴れの国おかやま国体へ助成
平成17年 3月11日	第1回文化イベント 岡山フィルハーモニック管弦楽団第26回定期演奏会チケットプレゼントの実施
平成17年 7月14日	晴れの国おかやま国体への助成(2回目)
平成17年 8月 3日	第2回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成18年 1月13日	財団のロゴマークの選考・決定
平成18年 4月 1日	公益法人指導監督担当課の変更により岡山県教育委員会から岡山県知事所管となる
平成18年 7月21日	第3回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成18年 8月 4日	コミュニティライブラリーの設置(岡山市駅前・岡山会館1階) 「晴れの国おかやま国体写真展 あの感動をもう一度!」 表彰者紹介コーナー・映像コーナーの設置
平成18年11月 3日	川島 基ピアノリサイタルの開催
平成19年 7月24日	第4回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成19年11月 2日	第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア2007」「生涯学習見本市」に出展

役員・評議員名簿

平成23年1月1日現在

平成20年 3月 8日	マルセン少年サッカー教室の開催(岡山湯郷ベル)
平成20年 7月29日	第5回マルセンスポーツ文化賞表彰式及びスポーツ文化活動助成金交付式の開催
平成20年11月 9日	岡山県生涯学習フェスティバル2008「マルセンバルーンアート教室」の開催
平成20年12月 1日	新公益法人制度施行により「特例民法法人」となる
平成21年 2月25日	「マルセン写真コンテスト入選作品展」岡山人満屋地下タウンアートスペース」において開催(3月2日まで)
平成21年 3月 8日	「マルセン少年陸上競技教室」の開催
平成21年 6月24日	第25回国民文化祭おかやま2010への助成金贈呈
平成21年 7月17日	岡山市北区駅前町1丁目2番4号へ事務所を移転。
平成21年 7月27日	第6回マルセンスポーツ文化賞表彰式及びスポーツ文化活動助成金交付式の開催
平成21年 8月 6日	「マルセン写真コンテスト入賞絵はがき」のプレゼント
平成21年10月18日	マルセン少年バレーボール教室の開催(岡山シーガルズ)
平成22年 1月13日	スポーツ文化の振興についての論文入賞者表彰式の開催
平成22年 3月 5日	「悠久への回帰 高橋秀 展」チケットプレゼントの実施
平成22年 5月13日	第25回国民文化祭おかやま2010への助成金贈呈(2回目)
平成22年 7月 5日	第7回マルセンスポーツ文化賞表彰式及びスポーツ文化活動助成金交付式の開催 マルセン栄誉大賞新設
平成22年 8月 5日	「マルセン小学生ソフトボール教室 in 岡山ドーム」の開催(平林金属女子ソフトボール部)
平成22年 8月12日	新田 佳浩氏(スポーツ大賞)理事長へ表敬訪問
平成22年 9月26日	「川島 基ピアノリサイタル」チケットプレゼント
平成23年 2月25日	「モネとジヴェルニーの画家たち」展チケットプレゼント
平成23年 3月13日	V・プレミアリーグ「女子バレーボール岡山大会」チケットプレゼント

役員名簿

役職名	氏名	会社名
理事長	千原 多美子	(株)成通 取締役
常務理事	千原 秀 則	(株)センインターナショナル 代表取締役社長
理事	伊 東 香 織	倉敷市長
//	加 計 孝太郎	学校法人 加計学園 理事長
//	川 崎 誠 治	学校法人 川崎学園 副理事長
//	越 宗 孝 昌	(株)山陽新聞社 代表取締役社長
//	高 谷 茂 男	岡山市長
//	吉 岡 洋 介	(財)ワコースポーツ文化振興財団 理事長
//	千 原 行 喜	(株)成通 代表取締役社長
監 事	衣 笠 和 孜	岡山療護センター センター長
//	信 朝 寛	元岡山県審議監

五十音順 敬称略

評議員名簿

役職名	氏名	会社名
評 議 員	馬 越 績	馬越績税理士事務所 所長
//	大 田 弘 之	テレビせとうち(株) 代表取締役社長
//	北 尾 好 昭	(株)瀬戸内海放送 常勤顧問
//	中 川 洋 一	西日本放送株式会社 岡山本社 中国総支社 支社長
//	平 松 掟	平松弁護士事務所(元日本弁護士連合会副会長)
//	藤 井 邦 昭	岡山ネットワーク株式会社 代表取締役社長
//	藤 原 隆 昭	山陽放送(株) 代表取締役社長
//	松 岡 俊 郎	岡山エフエム放送(株) 取締役会長
//	宮 内 正 喜	岡山放送(株) 代表取締役社長
//	藤 田 土 義	(有)ミスターメンテナンス 代表取締役社長

五十音順 敬称略

平成22年度 事業報告

第1章 助成事業関係

岡山県において、スポーツ・文化の振興及び発展に寄与するための諸活動に助成を行いました。

1 スポーツ活動に対する助成(応募総数/11件 採用件数/8件)

番号	団体名	活動名	活動目的
1	浅口市金光公民館	金光公民館短期講座「島トレッキング」	大自然の素晴らしさを体感しながら心身の健康増進と仲間作り
2	岡山西軟式野球スポーツ少年団連絡協議会	岡山西軟式野球スポーツ少年団錬成交流大会	日本スポーツ少年団活動理念の基、「軟式野球を通じ学童の健全育成」をめざす
3	久米南町教育委員会	カッピースポーツクラブ	子どもの体力向上と親子のふれ合う機会の増加
4	倉敷西公民館卓球Bグループ	第1回卓球親睦大会	技術向上と健康維持・会員の親睦
5	金光バレーボールクラブ	金光バレーボールクラブ	幅広い年齢層が集いバレーボール技術の向上と健康づくり
6	第40回全日本中学生ホッケー選手権大会実行委員会	JOCジュニアオリンピックカップ第40回全日本中学生ホッケー選手権大会	中学校教育の一環として、中学校生徒に広くホッケー実践の機会を与え技術の向上とアマチュア精神の高揚を図り、心身ともに健全な中学生生徒を育成するとともに、生徒相互の親睦をはかる大会
7	備前市陸上競技協会	備前市陸上競技協会設立20周年記念第7回BIZENナイトー陸上フェスティバル	幼児から大人までの陸上競技の普及と障害者スポーツのPR
8	御南体協バドミントンクラブ	バドミントンの地域活動	学区民へのバドミントン競技を通して競技機会の提供及び健康増進を図る

2 文化活動に対する助成(応募総数/43件 採用件数/13件)

番号	団体名	活動名	活動目的
1	特定非営利活動法人アートファーム	交響劇「神々の微笑」～古代吉備王国の光～	「交響劇」というコンセプトのもとに、演劇・音楽・舞踊・伝統芸能などの異分野が共同で創作活動に取り組み、その活動を通じて、地域における舞台芸術の新しい可能性に挑戦する。
2	岡山県高等学校芸術文化連盟	第34回岡山県高等学校総合文化祭総合開会式	高芸連加盟の高校生部活動17部門の成果発表により、情操豊かな生徒を育成し、芸術文化活動の健全な発展を図る。また広く県民の皆様に活動広報する。各部門の理解・交流を深めるとともに芸術文化の創造活動に励む者の一体感の醸成に努める。
3	岡山県天神山文化プラザ	平成22年度天プラ・ホールセレクション いいむろなおき パントタイム ソロ公演「マイムの時間」	「言語」に頼らず、身体のみで表現するマイムの方法とその可能性を知ること、舞台芸術のみならずあらゆる表現者のさらなる表現力の向上と創造力の探求を目的とする。
4	おかやま子ども民俗芸能大会実行委員会	おかやま子ども民俗芸能大会	県内に伝わる民俗芸能を広く県民に紹介し、民俗芸能が県民の財産であるという気運の醸成と民俗芸能の後継者の育成を図りたい。
5	岡山天文博物館	星月夜のコンサート	街灯りを消し本物の夜空を体験することであふれる自然と星空の素晴らしさを再認識させ、環境にやさしい街づくりの大切さを考えるきっかけを作る。「星の町浅口市」を生かすことで地域の再発見や市民の史に対する愛情や誇りにつなげ、市民の意識を一層高める。
6	特定非営利活動法人勝山町並み委員会	現代美術「紙」往来	地域伝統文化(和紙)の振興及び芸術を通しての国際交流
7	倉敷市立美術館	「共鳴する美術2010ーストーリー・テリングー」展	次代を担う郷土ゆかりの若手作家を支援し、地域の文化状況を活性化させる。
8	杉元 耕司	土人形展示会「歌舞伎を演じる土人形たち」	長年にわたり収集した郷土玩具の一種である全国各地の土人形によって、歌舞伎と関わり深い津山で人形展を開催し、地域起こしに貢献する。
9	創作歌劇団くらしき	創作オリジナルミュージカル「備中玉嶋湊物語」	多種の文化集合団特性を生かし、オリジナルで意欲的な創作事業活動を通じ、市民の文化生活的活力増強と地方文化の推進及び向上を目的としている。
10	坪田譲治を顕彰する会「子どもの館」	坪田譲治を顕彰する会「子どもの館」の活動	地元出身の児童文学者坪田譲治を顕彰する活動を通して、子どもたちの健全育成と地域活性化を図る。
11	デア・フリーゲル	デア・フリーゲル設立20周年記念オペラ・ガラ・コンサート～岡山フィルとともに～	声楽演奏を通じて、地域における音楽文化の向上に寄与する。
12	「ルネスをあそぶIV」実行委員会	ルネスをあそぶIV(ベトナム水上人形劇in岡山)	ベトナムの伝統的な舞台芸術(アジア芸術)に触れる機会を設ける。
13	若山牧水顕彰会	みんなで偲ぼう! 若山牧水	歌碑祭・街道祭に老若男女が集い、短歌の里づくりをめざす。

3 指定寄付 第25回 国民文化祭おかやま2010 助成金 100万円(2回目)

このたび、マルセン栄誉大賞及びマルセン特別賞を創設した。

1 マルセン栄誉大賞

平成21年度スポーツ・文化活動において国際大会・全国大会等で、特に優秀な成績・業績を収めた個人又は団体で、大賞受賞者が更なる優秀な成績に応えるマルセン栄誉大賞を創設した。

【マルセン栄誉大賞】(副賞/100万円)

●高橋 大輔【スケート競技 フィギュア】

- 平成22年2月に開催された第21回オリンピック冬季競技大会(2010バンクーバー)において、フィギュアスケート日本男子史上初の第3位となり銅メダルを獲得した。
- 同年3月に開催された平成22年世界フィギュアスケート選手権大会(イタリア・トリノ)においても、日本人男子初の優勝を飾り、金メダルを獲得した。
- 平成20年の右膝靭帯断裂という大ケガから見事に復活し、県民に多大な勇気と感動を与えた功績は大である。

2 マルセン大賞

【マルセンスポーツ大賞】(副賞/100万円)

●新田 佳浩【スキー競技 クロスカントリー】

- 3歳のときに、農作業用機械に左腕を挟まれ、ひじから先を失う。小学生3年生からクロスカントリーを始めた。
- バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会(平22.3.12~3.21)において、クロスカントリースキー競技男子立位10kmクラシカル及び1kmスプリントクラシカルの2種目で1位(金メダル)を獲得した。
- クロスカントリーでの金メダル獲得は、日本選手団初の快挙であり、本人の獲得メダルもソルトレークシティパラリンピックの銅メダルに続き、3個となり県民に大きな希望と感動を与えた。

【マルセン文化大賞】(副賞/100万円)

●井手 康人【美術 日本画】

- 平成20年『第93回院展』出品作「奏楽来現」で、11年連続の奨励賞受賞。また、平成18年『第91回院展』出品作「奏園」が奨励賞受賞と同時に第12回天心記念茨城賞受賞。そして、平成21年『第94回院展』出品作「不二一元」は、一般応募の最高賞日本美術院賞(大観賞)に輝いた。現在日本美術院特待で、将来大家になることが予想される有望作家である。岡山県に根を下ろし活躍する姿が頼もしい。

3 マルセン賞

平成21年度スポーツ・文化活動において優秀な成績あるいはスポーツ・文化の振興に貢献した個人または団体を表彰。

【マルセンスポーツ賞】(副賞/30万円)

●井上 正【体操競技 男子新体操の指導】

- 平成12年4月、岡山国体男子新体操競技の選手強化のため京都府から転居。同年6月に井原ジュニア新体操クラブ設立とともに監督に就任。全国制覇を目標に日々練習に取り組み、平成21年度には3度目の全国制覇を果たし全国トップレベルの強豪チームに育て上げるなど指導力の高さを示した。また、男子新体操競技を井原市に普及・定着させ、卒業生は国体・インターハイ・全日本選手権などで優勝し、現在も活躍しており、今後もますますの活躍が見込まれる。

●岡山県立玉野光南高等学校陸上競技部【陸上競技】

- 全国高等学校総合体育大会 秩父宮賜杯全国高等学校陸上競技対校選手権大会において、男子が総合初優勝を成し遂げた。これは岡山県では、昭和50年の岡山工業高等学校以来の快挙であり、陸上競技「岡山県」を広く全国に知らしめた功績は大きいものがある。学校創立(昭和59年4月)以来、数多くの選手が全国総体(インターハイ)に出場し、6回の優勝を成し遂げている。

●皇后杯第28回全国都道府県対抗女子駅伝チーム【陸上競技】

- 第1回大会第45位、第2回大会第46位。過去優勝チームの中では、最も下位の成績を経験している。そのような岡山県チームが平成17年以降には、上位の常連となり、「皇后杯第28回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会」において、京都府の6連覇を阻止し、念願の初優勝を果たした。社会人・高校生のレベルアップに加え、泣き所とされた中学生の頑張りも成果をもたらした大きな感動を呼んだ。岡山県女子陸上競技長距離界のレベルの高さを全国に向けて発信した功績は大きなものがある。

【マルセン文化賞】(副賞/30万円)

●高田神社横野獅子舞保存会【無形民俗文化財の振興】

- 高田神社横野獅子舞保存会は、獅子舞の保存普及と後継者の養成に力を注いでおり、高田地区の小学校等で指導を受けている子どもたちは、平成19年に津山市で開催された「おかやま子ども民俗芸能大会」に出演し練習の成果を存分に発揮した。また、保存会の大人たちも、平成20年倉敷市で開催された「中四国ブロック民俗芸能大会」に出演など、地域での伝承活動のほか、市内外のイベントに招かれて公演しており、日頃の成果を発表するとともに、獅子舞を広く知っていただくことに努めるなど活発な活動を展開し、県内伝統芸能の範となっている。

●諸星 美喜【美術 日本画】

- 大学在学中から、毎年のように各種公募展で、入選・入賞を続け、平成17年度には、ついに日展特選を受賞し、平成21年度「第41回日展」出品作「ゆらり」で、2回目の特選に選ばれた。岡山県の日本画家層は洋画に比べ薄く、日展特選も金谷朱尾子(故人)・池畑秀穂を含め3人だけである。今後の活躍が期待できる中堅有望作家である。

第3章 イベントの開催(協賛)

1 スポーツ

- 男子第49回女子第40回西日本学生ハンドボール選手権大会(協賛)
平成22年7月10日(土)～14日開催 桃太郎アリーナ・岡山県総合グラウンド体育館
- マルセン小学生ソフトボール教室の開催
平成22年8月5日(木) 岡山ドーム
参加者/120名 講師/平林金属女子ソフトボールクラブ選手の皆さん
- 第29回山陽女子ロードレース大会(協賛)
平成22年12月23日(木・祝)開催 岡山市内
- 女子バレーボール V・プレミアリーグ戦 チケットプレゼント
平成23年3月13日(日) 桃太郎アリーナ
招待/100名(50組)(応募数410件)



2 文化

- 第6回沙美アートフェスト(協賛)
平成22年5月15日(土)開催 倉敷市沙美海岸(54作品)
展覧会/倉敷市立美術館第1展示室 平成22年8月17日～22日
- (社)岡山県文化連盟・文化講演会「文化のつどい」(助成)
平成22年8月25日(水)「音楽と私」ピアニスト 松本 和将氏
平成22年8月28日(土)「音楽と私」メソソプラノ 伊藤 宏恵氏
平成22年9月1日(水)「彫刻の見方」彫刻家 蛭田 二郎氏
- 「川島 基ピアノリサイタル」チケットプレゼント
平成22年9月26日(日) さん太ホール
招待/30名(15組)
- 特別展「モネとジヴェルニーの画家たち」チケットプレゼント
平成23年2月25日(金)～4月10日(日)
招待/150名(300組)(応募数527件)
(当初25組招待のところ、成通グループから125組分の提供を受けた)
- アンデルセン・ミュージカル「ハンスの冒険」チケットプレゼント
平成23年3月19日(土)・20日(日) 倉敷公民館
平成23年3月22日(火)・23日(水) 岡山・さん太ホール
招待/40名(親子20組)
(成通グループから提供を受けた)

第4章 スポーツ・文化に関する広報、啓発事業

1 ホームページの管理



2 機関誌「マルセン」7号の発刊

3 スポーツ・文化活動助成事業の広報

- ラジオ番組への出演 番組提供 (株)成通グループ
RSKラジオ パーソナリティ:石田 好伸
「おかやま朝まるステーション昼またぎ」(12:30～40 放送内)
期間 平成22年8月3日～10月19日 毎週火曜日 12回
出演者 平成22年度 助成金交付対象者全員
スポーツ関係 8名 文化関係 13名
各団体(個人)の活動状況等をリスナーに知らせる事ができた。

2010年岡山勢が全国舞台の女子駅伝で3冠達成



全国都道府県対抗女子駅伝・岡山

全国都道府県対抗女子駅伝で初の栄冠を獲得した岡山。皇后杯を手にする山口衛里監督を囲む選手ら



全日本実業団対抗女子駅伝・天満屋

全日本実業団対抗女子駅伝で初優勝した天満屋。栄光のテープを切る浦田佳小里

2010年、女子駅伝の全国舞台で岡山のランナーが躍動した。

1月17日、京都市の西京極陸上競技場を発着する9区間42.195^{キロ}のコースで行われた第28回全国都道府県対抗で岡山県チームが栄光の先陣を切る。県勢過去最高タイムとなる2時間16分24秒で初優勝、この大会から初めて授与された皇后杯を手にした。国内屈指の実業団の天満屋勢と高校の興譲館勢に、次代を担う中学生の力がかみ合い、初の頂点に立った。

1区11位の岡山は、2区浦田佳小里(天満屋)が区間賞の力走で3位に浮上。3、4区でトップの千葉に2秒差に詰め寄せると、5区菅華都紀(興譲館高)が区間賞を奪って首位に。さらに6区赤松真弘(同)も区間新をマークする快走で後続を突き放した。その後もトップを譲ることなく、最後は北京五輪マラソン代表の中村友梨香(天満屋)が笑顔でゴールテープを切った。岡山の入賞は6年連続7度目、表彰台は4年連続となった。

表彰式では、日本陸上競技連盟の河野洋平会長から主将の泉有花(同)に皇后杯が手渡され、メンバー全員に金メダルがかけられた。

1983年の第1回大会は45位。あれから27年、各年代の指導者が手を携えた長年の強化策が実を結んだ。「昨年は2位で今年は優勝しかないと考えていた。有言実行できて良かった」と山口衛里監督。新たな歴史を刻んだ選手たちの手によって破顔の指揮官が宙に舞った。

12月19日、岐阜市の長良川競技場を発着する6区間42.195^{キロ}のコースで争った第30回全日本実業団対抗では、天満屋が2時間14分35秒で初優勝、19年連続出場となった大舞台で悲願の日本一を達成した。

1区泉がトップと8秒差の4位と好発進した。6位でたすきを受けた北京五輪代表の中村がエース区間の3区で順位を一つ上げると、最長5区で重友梨佐が区間賞の力走で4人を抜き一気に首位に浮上。最後は3年連続でアンカーに起用された浦田が重友に続く区間賞でリードを広げ、2位第一生命に約1分の大差をつけてフィニッシュした。11秒差で惜しくも栄冠を逃した前回の雪辱も果たし、優勝の瞬間、選手たちは抱き合って喜びを分かち合った。

天満屋の入賞は10年連続14度目で、表彰台(3位以内)は7度目。武富豊監督は「一人でもミスがあると勝てないと思っていたが、全員が想定通りか、想定よりいいタイムで走ってくれた」とねぎらった。

岡山旋風の締めは興譲館高だ。12月26日に京都市の西京極陸上競技場を発着点に、5区間21.0975^{キロ}で競った女子第22回全国高校駅伝で1時間7分50秒でゴール、5年ぶり2度目の栄冠をつかんだ。

1区菅が区間賞を奪う絶好のスタートを切った。その後、2位に後退したが4区赤松弘佳が区間1位の好走で首位に浮上。最後はエースで赤松の双子の妹、真弘が逃げ切った。

入賞は8年連続で、表彰台(3位以内)は7年連続。予選のタイムは全国1位。優勝候補の大本命が前評判通りの強さを発揮した。過去4年は準優勝、3位が各2度と惜敗続き。99年の創部からチームを率いる森政芳寿監督は「控え選手を含めた部員全員のチームワークでつかった勝利」と感慨に浸った。

女子の全国都道府県対抗、全日本実業団、全国高校の3駅伝で同一都道府県が同一年で優勝を飾ったのは、史上初。さらに、年明けの都道府県女子駅伝で、岡山県チームは2連覇こそ逃したが、後半粘って2位に食い込み底力を示した。駅伝強豪県の地位を揺るぎないものにした岡山は、今まさに黄金期を迎えている。

(本文、写真、表いずれも山陽新聞社提供)



全国高校駅伝・興譲館

全国高校駅伝女子で5年ぶり2度目の優勝を飾った興譲館。1区菅華都紀(右)から2区岡末友紀へのたすきリレー

…女子駅伝の全国大会栄光の跡…

年	都道府県	全日本実業団	全国高校
1988年	京都	京セラ(京都)	
89年	京都	ワコール(京都)	市船橋(千葉)
90年	京都	ワコール(京都)	群馬女短大付(群馬)
91年	京都	ワコール(京都)	筑紫女学園(福岡)
92年	京都	ワコール(京都)	市船橋(千葉)
93年	大阪	リクルート(千葉)	仙台育英(宮城)
94年	千葉	リクルート(千葉)	仙台育英(宮城)
95年	宮城	ワコール(京都)	埼玉栄(埼玉)
96年	京都	沖電気宮崎(宮崎)	埼玉栄(埼玉)
97年	熊本	沖電気宮崎(宮崎)	埼玉栄(埼玉)
98年	埼玉	東海銀行(愛知)	田村(福島)
99年	福岡	沖電気宮崎(宮崎)	筑紫女学園(福岡)
2000年	長崎	三井住友海上(東京)	立命館宇治(京都)
01年	兵庫	三井住友海上(東京)	諫早(長崎)
02年	京都	第一生命(東京)	筑紫女学園(福岡)
03年	兵庫	三井住友海上(東京)	須磨学園(兵庫)
04年	兵庫	三井住友海上(東京)	諫早(長崎)
05年	京都	三井住友海上(東京)	興譲館(岡山)
06年	京都	資生堂(東京)	須磨学園(兵庫)
07年	京都	三井住友海上(東京)	立命館宇治(京都)
08年	京都	豊田自動織機(千葉)	豊川(愛知)
09年	京都	三井住友海上(東京)	豊川(愛知)
10年	岡山	天満屋(岡山)	興譲館(岡山)

【注】都道府県は全国都道府県対抗女子駅伝。全国高校女子駅伝は1989年創設

青春のひとときを岡山(日生)で過ごしたSF作家の眉村卓さん

岡山県は数多くの文学者を輩出したことで知られる。だが、岡山で人生の一時期を過ごした作家は意外に知られない。「ねらわれた学園」など少年向け小説でも知られる日本SFの巨匠・眉村卓さん(76)=大阪市阿倍野区=もその一人。がんで余命1年を宣告された妻の悦子さん(故人)のために毎日1話、短い物語を書き続けた実話を映画化した「僕と妻の1778の物語」が今年1月に公開され、注目される眉村さんに、青春のひとときを過ごした岡山県日生町(現在の備前市)の思い出など聞いた。

<眉村さんは、大阪大経済学部を卒業し、1957年、大阪窯業耐火煉瓦(現ヨータイ)に入社。すぐに日生工場(備前市)に転勤となった。大阪の市街地で生まれ育った眉村さんにとって、初の地方暮らしだった>

当時の日生は、自然豊かでのどかな港町で、震災から復興した大阪から来た僕には、戦前にタイムスリップしたように映りました。岬の突端にある工場では600人くらいが働いていて、僕は総務課の庶務係として現場での事務全般を担当しました。社内報の校正で岡山市に行ったついでに映画を見たこともありでしたね。

独身寮での生活も忘れられない思い出です。年代の近い寮生が8人くらいだったかな。何かにつけ酒を飲んで騒いだものです。僕は大学時代に柔道をしていましたから、同好の士を集めて柔道部を作ったりもしましたよ。

本当に楽しい毎日でしたが、半ば研修のような形だったから、11カ月後に大阪の本社に戻りました。希望すれば残ることもできたんですが、高校時代の同期生だった妻との結婚を考えていたし、文学への思いも強くなっていました。ここに安住してはいけな、と思ったのも確かです。

<眉村さんは、1963年に退職し、デビュー作「燃える傾斜」を発表。SF作家の道を歩んでいく。創作の中で、青春



「妻との最後の5年間は、作家としても掛け替えのない時間だった」と語る眉村卓さん=大阪市内のホテル

まゆむら・たく

眉村 卓 (SF作家)

大阪生まれ。大阪大経済学部を卒業後、大阪窯業耐火煉瓦(現ヨータイ)に入社。1957年に岡山県・日生工場に赴任し、約1年間勤務した。63年に「燃える傾斜」で作家デビュー。日本のSF作家第一世代として活躍し、「なぞの転校生」「ねらわれた学園」といった少年向け小説も人気を集めた。79年に「消滅の光輪」で泉鏡花文学賞。2010年11月には「1778話」から52編を選抜した「僕と妻の1778話」(集英社文庫)も出版された。日本ペンクラブ副会長、大阪芸術大客員教授。

の一時期を過ごした日生は、意外にも大きな役割を果たしたという>

日生はずっと大好きな町です。今も執筆の合間に、気分転換や俳句の吟行で足を運んでいますよ。僕の日常とまったく異なる空間でありながら、人も町もなじみ深く、安心してリフレッシュすることができる。いわば「心の古里」ですね。

日生では特に何もしないんです。なじみの旅館に泊まり、町や海岸を歩くだけ。そんな時間に身を浸していると「本当の僕はあの時に日生に留まり、今も会社に勤めているんじゃないか」という思いさえ浮かんできます。

そこから着想を得たのが「傾いた地平線」(1981年)です。僕をモデルにした中年の作家が、突然、人生のさまざまな「if」を体験していく物語。その一つとして岡山県の「H町」での生活を書きました。もちろん日生に残った僕を想像したものです。

「傾いた地平線」以外にも、作品の舞台として「H町」は何度も登場させましたよ。名前は出なくてもモデルにした作品も多い。僕が知る「田舎」は、当時の日生だけだから、地方を描く時には、必ずその記憶が土台になるわけです。あの11カ月は、貴重な経験でしたね。

<日本のSF作家第一世代として、数多くの作品を発表してきた眉村さん。しかし、妻悦子さんががんが見つかった97年当時、作家として深刻な危機を迎えていた>

時代の流れの速さに付いていけなくなっていたのかな。出版物として要求される物語が、僕の書きたいものとずれていき、何を書けばいいのか分からなくなった。最大の停滞期でした。

そんな状況で闘病中の妻を元気づける「1日1話」に取り掛かったものですから、本当に苦しかった。アイデアに詰まってイライラして、妻を心配させてしまう、ということまでありました。



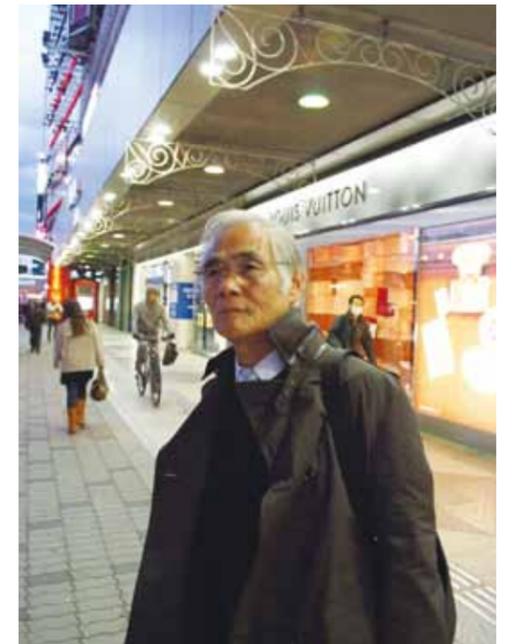
日生が舞台として登場する長編「傾いた地平線」の表紙

彼女の死(2002年5月)で執筆を終えてからは、しばらく何もする気になれませんでした。しかし、心が少しずつ書く方に動き始めた。僕自身の日常を少しずつすることから始まる非日常の物語。それが、8年ぶりの長編「いかげんワールド」(06年)と昨年12月出版の「沈みゆく人」(ともに出版芸術社)です。

これらは「必ずどこかで日常とつながっていること」をルールにした「1日1話」から生まれたものです。妻を思って書き続けた日々が、停滞した僕に道を開いてくれた。

彼女がいなくなって8年以上が過ぎました。一人の暮らしにも慣れてきましたが、部屋で書いていると、彼女が今にも階段を上がって様子を見に来るような…。そんな空想は、今の僕にとって楽しいものなんです。

(本文、写真ともに山陽新聞社提供)



「日生は、僕が初めて体験した“異郷”でした」。生まれ育った大阪の街にたまたまむ眉村さん

第6章 贈呈式

- とき 平成22年7月5日(月) 午前11時より
- ところ ホテルグランヴィア岡山「クリスタル」の間
- 式次第 1 開 式
2 あいさつ
3 来賓祝辞
4 表彰状及び副賞贈呈
5 受賞者代表あいさつ
6 助成金交付
7 助成金受領者代表あいさつ
8 閉 式



第7章 受賞者からのひとこと

マルセン荣誉大賞



マルセン荣誉大賞受賞にあたって

高橋 大輔

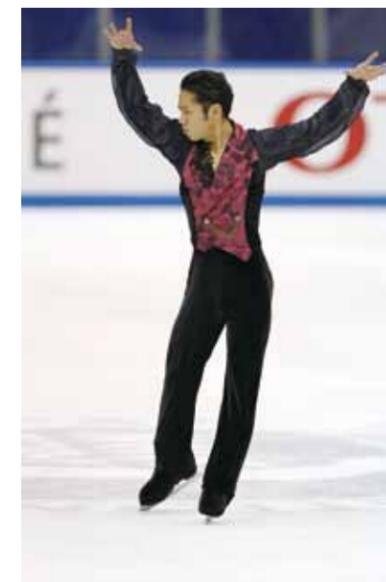
この度は、「マルセン荣誉大賞」という名誉ある受賞し、まことに身に余る光栄なことと感謝しております。マルセンスポーツ・文化振興財団関係者の皆様、またご声援を頂きました皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。

昨シーズンはバンクーバーオリンピックで銅メダル、トリノ世界選手権で金メダルを獲得することができました。2008年に右膝十字靭帯断裂及び半月板損傷という怪我をした際、この先、競技人生はどうなるだろうと思うこともありましたが、今、振り返ると「スケートがしたい」という気持ちが僕を動かしてくれたように思います。氷上から5カ月程離れ、徐々に氷上にのった際には、子供の頃にここ岡山・倉敷でスケートをしていた純粋な気持ちを思い出しました。リハビリ中は大変なことだけではなく、沢山の方々と出会う機会を頂き、スケートを離れることで違った角度からいろいろなことを学ぶことができました。また、沢山の関係者に恵まれ、今回の成績が収められ、このような栄えある賞を頂くことができたのも決して一人の力では成し遂げられなかったことと強く思います。

バンクーバーオリンピックを終えたら競技生活を引退するつもりでおりましたが、もう少し自分に挑戦したいという気持ち、そして怪我から復帰し、体が動く喜びを感じ、今シーズンも競技生活を続けることに致しました。今後も皆様に喜んで頂けるようなスケート、そして未来を担う子供たちに夢を与えられるようなアスリートでいたいと思います。

今シーズンは世界選手権が日本で開催されます。2連覇そして自分の理想のスケートができるよう毎日を大切に一步一步進んでいく所存です。

今後も何卒応援の程宜しくお願い申し上げます。



写真は「Yuriko Imanaga」提供



マルセンスポーツ大賞

マルセンスポーツ大賞受賞にあたって

新田 佳浩

まず今回このような賞を受賞することができ、大変光栄なことです。ただ、この賞を受賞できたのは、私1人だけの力ではありません。3歳のとき、コンバインという農機具でケガをしたとき、当時運転していた祖父。事故をいち早く気が付いた祖母。コンバインの中に入ってしまった私の左手を1つ1つ捜してくれた近所の方々。少年時代、何か出来なくて泣いて帰る私に温かいサポートをしてくれた家族の存在。そして学校でも、多くの先生方、友人に支えられ岡山県で過ごすことが出来ました。

父親が片手の私に「やれば何でも出来る」という思いを持たせるために始めたスキーが、私の人生の中で大きな存在となりました。それは、1998年に行われた長野パラリンピックに出場するきっかけになったばかりでなく、荒井監督をはじめ多くの方と出会うきっかけとなりました。

そしてパラリンピックとの出会いを契機に、私の中である想いを持つようになりました。それは、事故の責任を感じている祖父に金メダルをかけてあげるということでした。その想いを持つようになって、12年かけてようやく、今回のバンクーバーで金メダルを獲得することが出来ました。

今回の金メダルは、様々な方の出会いや想いがなければ出来なかったことです。私はその想いを駅伝のように襷をつないだからこそ達成できたのではないかと考えています。ただ、これが私のゴールではありません。次回行われるロシアのソチパラリンピックに向けて、大会の連覇。そして、私のように障がいを持っていても、頑張っている子ども達に夢や希望を持つことができる環境作りをしていきたいと考えています。この目標が達成できるかわかりませんが、情熱を力に変えて全力で頑張っていきたいと思っています。

今回、このような賞を受賞し、気持ちを新たにしています。



マルセン文化大賞

平山郁夫先生から預かったもの

井手 康人

一昨年末、平山郁夫先生は御逝去されました。私は東京芸術大学大学院では、平山先生の研究室に進むことが出来ました。

しかし、修士2年生になると、平山先生は学部長になられ、その研究室は福井爽人先生が受け継がれることになりました。私は平山先生の最後の研究室の学生となってしまいました。

平山先生の研究室では多くの優秀な先輩がいます。福井爽人先生はその代表的存在で、平山先生の後継者です。福井先生は寡黙で作家としての姿勢を見せる先生だと思います。それでも私達に語ってくれる言葉は重く、哲学的で深く考えさせられるお話ばかりでした。それは福井先生御自身の経験や深い洞察によるものが多いとは思いますが、やはりいつも平山先生の側にいて、大きな影響を受け続けていたからではないかと思っています。そして、平山先生が残してくれたものを守ろうとしているようにも思えます。

我々は数式や言葉で表現できませんが、心で受け継がなければ永遠に存在しなくなるその生命を預かっているようなものだと思います。これからも精一杯の気持ちで制作に取り組んでいくしかありません。



枯華微笑 (第95回院展無鑑査作品)

マルセンススポーツ賞



受賞にあたって

井原ジュニア新体操クラブ 監督 井上 正

この度は、名誉あるマルセンススポーツ賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。受賞の喜びはもちろんですが、普段表に出ることの少ないジュニアの指導者に目を向けていただいたことに感激しております。と同時に大きな責任も感じており、今後も現状に満足せず努力を重ねなければならないと肝に銘じております。

京都出身の私が、男子新体操ジュニア選手強化を任せられ井原市に来て10年になりました。日本一の選手を育ててみたいという思いと、指導経験の浅い私を必要とし、声を掛けていただいた方々の期待に何とか応えたいという思いを心に留め、平成12年6月にチームを立ち上げました。当時井原市には男子新体操の土壌が全くなく、まさにゼロからのスタートでしたが、『チャンピオンは井原から!!』をスローガンに強化活動がスタートしました。結果を出さなければならないプレッシャーもありましたが、新体操が一番楽しかったのはこの年かもしれません。創部から3年目の平成14年に全日本ジュニアに初出場し、翌15年には悲願の優勝を果たすことができました。嬉しいことにその当時の選手たちはインターハイ・国体でも優勝し、今では大学生となり全日本選手権でも優勝するなど、新体操界の宝となっています。指導者としてこれほど嬉しいことはありません。また、そんな先輩たちを目標にして頑張っている今の選手たちが21年度、そして今年度4回目の優勝を果たしてくれました。

このような短期間で成績が残せているのも選手の頑張りはもちろん、関係者の方々、地域の方々の多大なるサポートがあればこそ成し遂げられたものであり、心より感謝しておりますとともに、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、マルセンススポーツ文化振興財団の益々の御発展を心より祈念申し上げます。



マルセンススポーツ賞



受賞にあたって

玉野光南高校 陸上競技部 顧問 長谷川 昌弘

この度は、「マルセンススポーツ賞」を戴き、誠にありがとうございます。

本校は、昭和59年に開校して、今年で27年目の学校です。開校と同時に陸上競技部も創部しました。インターハイでの総合優勝は、本校陸上競技部の最大の目標でありました。それが2009年の奈良インターハイにおいて男子学校対抗で総合優勝を達成することができました。

2006年の大阪インターハイで、男子総合8位に入賞し、閉会式に出席しました。優勝した学校は、選手が7人も並び、顧問は優勝監督賞を受け取ります。スタンドからその光景を見ながら『いつかは総合優勝し、選手たちといっしょにこの閉会式で表彰されたい』と強く思いました。

2009年の奈良インターハイでの最終種目4×400mリレー決勝。その前の時点で本校は総合得点20点で2番目。1番目の学校は、このリレーの決勝に進めなかったため、うちが6位以上で総合優勝が決まります。アクシデント(接触・転倒やバトンを落とすなど)がないことを祈りながらスタンドから見守っていました。アンカーの安部孝駿にバトンが渡ったときが5位。安部は3人抜いて2位でフィニッシュ。その瞬間、男子総合優勝が決まりました。神達靖久岡山県陸上競技協会理事長と握手をし、ゴールした選手たちのところへ走って行きました。

このインターハイで400mHで優勝した安部孝駿は、2010年にカナダで開催された世界ジュニア陸上競技選手権でも400mHで準優勝、銀メダルを手にすることができました。彼には『オリンピック』という大きな夢舞台で活躍してほしいと思います。

最後になりましたがこの受賞にあたりご尽力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。





マルセンスポーツ賞

マルセンスポーツ賞受賞にあたって

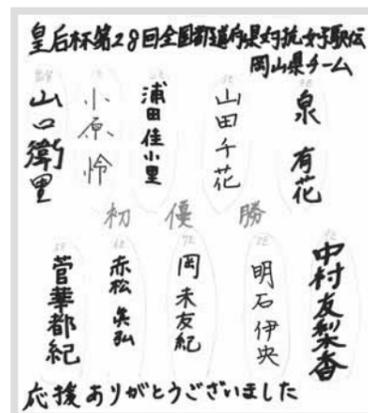
皇后杯第28回全国都道府県対抗女子駅伝 岡山県チーム 監督 **山口 衛里**
(天満屋陸上競技部コーチ)

この度は、名誉あるマルセンスポーツ賞を受賞させて頂き誠にありがとうございました。

毎年京都で行われる「都道府県対抗女子駅伝競走大会」は今回から「皇后杯」がついた大会、皇后杯第28回全国都道府県対抗女子駅伝大会で、各県チームが狙っているハイレベルなレースの中、岡山県代表選手たちの「優勝したい」という執念とチームスタッフや関係者、県民の方々のご支援、ご協力いただいたおかげで「初優勝」勝ち取れたと思っております。また、私自身、岡山県チームの監督となってから僅か2年で最高の結果を味わうことができました。しかし、それは、これまでの監督、スタッフが選手の強化に時間をかけてご尽力戴き、選手育成をして頂いた努力がやっと実り、最高の結果を出すことができたと思っております。この努力を無駄にしない様に、これからも気持ちを引き締めていきたいと思っております。

今は、今年度の大会2連覇に向けて準備をしております。私たちは、結果を残すことで応援してくださっている方々への恩返し、また、見てくださっている方々に少しでも元気を与えられるように、いい結果を残せて行けたらと思っておりますので、今後とも応援のほどよろしくお願い致します。

最後になりましたが、この受賞にあたりご尽力頂きました、関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、マルセンスポーツ文化振興財団の今後ますますの発展と受賞に対するお礼させて戴きます。



マルセン文化賞

受賞を転機として

高田神社横野獅子舞保存会 会長 **小林 一知**

この度は栄えあるマルセン文化賞をいただき加えて多額の副賞を有難う御座いました。まずもって貴会には県内のスポーツ、文化の振興に大変ご尽力になって居られる事績に接し深く敬意を表する次第です。

さて、私たちの高田神社横野獅子舞保存会は高田神社の氏子約370戸で構成し、古くから伝わっている神社祭礼の行事として獅子舞を伝承しているものです。当番組を5組に分けて編成し毎年例大祭を担当しますが、この際獅子舞連中（笛、太鼓、獅子34～40人）を編成し練習を重ね技能を引き継いでいます。また高田小学校では郷土の伝統文化である獅子舞を学校文化祭の行事に採り上げています。

今般の副賞を有効に活用する方途を検討の結果、1、高田小学校に対して出石神楽笛32本を贈呈する。2、各当番組に対して技能者の確保養成と研修経費として毎年一定額を交付することにしました。

小学校では従来獅子舞の笛に学習用リコーダーの縦笛を使用していましたが、演技の手伝いをしている獅子舞保存会のものとしては横笛にならぬものかと思案していました。

そこでこの機会に本来の横笛に切り替えるように学校と相談しましたところ意欲的な理解が得られたので現物提供することにした次第です。

また、当番組においては、獅子舞組織の基礎組織として後継者の確保養成を担っていますのでその活動経費の一部を支援するようにして組活動強化の制度を確立することにしました。

今回の受賞が私たちの地域に於ける活動の一つの転機となり新たな取り組みがはじまりました。伝統文化の伝承に物心両面から新しい息吹が加わり活性化に役立つ行動が展開できますことを大変有意義に感じています。





マルセン文化賞

蛸と私と…

諸星 美喜

ただただ絵を描いているだけの私は、マルセン文化賞受賞の重みを感じずにはられない。誠に有り難く、背中を押して頂いた温かな気持ちは何よりも嬉しい。偶然にも授賞式当日は、私の誕生日で忘れられない一日でもあった。なにぶん文才も無く格好良い言葉など何も思い付かないけれど、思うままに綴ろうと思う。

美術大学を卒業し、結婚と共に京都から引っ越してきた私は、不安でたまらなかった。ココで描いていけるのか？やはり筆を折ることになるのか？自問自答の日々だった。そんな中、倉敷で初めて出逢った愛すべきモデル、それは下津井の蛸だった。仲買人から生きた蛸を譲り受け、アトリエで飼育しながら、来る日も来る日も写生した。毎日主人と下津井まで海水を汲みに行き、餌になる小さな蟹を探した。時に元気な蛸は、あらゆる物を破壊・脱走を重ね、ふと見ると色鉛筆を握っていた。「やはり絵描きが飼う蛸は、図面も描くのかぁ〜っ！！」と大声で笑った。何か面白い命のカタチを表現出来ないか……。今の自分に嘘をつかず豊かな思いを描いてみようとして「魚シリーズ」がココから始まった。

倉敷で描いて日展に出品し続けて10年余り。豊かな瀬戸内の海から、もっともっと大きな海が観たくなり、2009年ナポレオンフィッシュを描いた。その作品「ゆらり」が、第41回日展で特選を受賞した。2回目の特選受賞だったが、あの作品で良かったのかと未だに迷っている。まだまだ満足いく絵は一枚も描けていない。それでもまた朝がきて、いつものアトリエでいつものように魚を描いている。優しい主人と甘えん坊の猫、私はココで生きている。



事業の記録

1 表彰の記録

第6回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
21.7.27	スポーツ	大賞	該当者なし	
		賞	岡山県作陽高等学校ゴルフ部	ゴルフ競技
			木村禎宏 山陽女子高等学校 体操部 平林金属男子ソフトボールクラブ	車いすテニス競技 体操競技 ソフトボール競技
	文化	大賞	高原洋一	美術 洋画 版画
		賞	大島の傘踊り保存会 片山康之	無形民俗文化財 伝統芸能 美術 彫刻

第5回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
20.7.29	スポーツ	大賞	天満屋女子陸上競技部	陸上競技
		賞	県立新見高等学校ソフトボール部 県立新見高等学校軟式野球部	ソフトボール競技 軟式野球競技
			福元 美穂 宮間 あや	サッカー競技 GK サッカー競技 MF
	文化	大賞	該当者なし	
		賞	井手 康人 小川 尊一 神代郷土民謡保存会 津山市立北陵中学校吹奏楽部 明誠学院高等学校書道部	美術 日本画 美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能 音楽 吹奏楽 書道

第4回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
19.7.24	スポーツ	大賞	該当者なし	
		賞	麻生 薫 岡山県作陽高等学校サッカー部 岡山湯郷Belle	ハンドボール競技 監督 サッカー競技 サッカー競技
			長田 京大 牧野 吉伸	新体操競技 監督 ウエイトリフティング競技 監督
	文化	大賞	山口 松太	漆芸
		賞	多胡 昭彦 田丸 稔 宮尾 昌宏	天文学 美術 彫刻 工芸 陶芸

第3回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
18.7.21	スポーツ	大賞	高橋 大輔	スケート競技フィギュア
		賞	植村 正明 古川 興幸 森政 芳寿	ソフトテニス競技 監督 レスリング競技 監督 陸上競技 監督
			大賞	あさの あつこ
	文化	賞	川島 基 難波 滋 福石神楽団	音楽 ピアニスト 美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能
			特別賞	岡山県剣道連盟 岡山県山岳連盟 岡山シーガルス 関西高等学校ボート部

第2回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
17.8.3	スポーツ	大賞	水鳥 寿思	体操競技
		賞	石本 直樹 諸見里 しのぶ 横山 純子	ベンチプレス競技 ゴルフ競技 陸上競技 監督
			大賞	小川 洋子
	文化	賞	石田 宗之 はやし田植え保存会 濱坂 渉	美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能 美術 彫刻

第1回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	賞	氏名	種別
16.12.14	スポーツ	大賞	武富 豊	陸上競技 監督
		賞	土井 美智恵 藤原 佳市 柳井 清志	水泳競技(マスターズ) 体操競技 監督 ソフトボール競技 監督
			大賞	高橋 秀
	文化	賞	栗井春日歌舞伎保存会 岡山フィルハーモニック管弦楽団 松本 和将	無形民俗文化財 伝統芸能 音楽 管弦楽 音楽 ピアニスト

事業の記録

2 助成の記録

第6回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
21.7.27	スポーツ	100万円	19件	10件	959,115円	第25回国民文化祭おかやま2010 100万円 合計 25件 3,258,115円 累計 128件 16,052,665円
	文化	100万円	42件	14件	1,299,000円	

第5回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
20.7.29	スポーツ	100万円	34件	10件	996,410円	県立総社南高等学校ダンス部保護者会 100万円 合計 21件 2,996,410円 累計 103件 12,794,550円
	文化	100万円	45件	10件	1,000,000円	

第4回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
19.7.24	スポーツ	100万円	31件	10件	964,500円	合計 21件 1,994,500円 累計 82件 9,798,140円
	文化	100万円	53件	11件	1,030,000円	

第3回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
18.7.21	スポーツ	100万円	36件	10件	970,000円	合計 20件 1,962,000円 累計 61件 7,803,640円
	文化	100万円	27件	10件	992,000円	

第2回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
17.8.3	スポーツ	100万円	34件	10件	988,640円	晴れの国おかやま国体 100万円 合計 21件 2,988,640円 累計 41件 5,841,640円
	文化	100万円	24件	10件	1,000,000円	

第1回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月日	区分	予算	応募数	助成数	助成額	
16.12.14	スポーツ	100万円	31件	10件	1,000,000円	晴れの国おかやま国体 100万円 合計 20件 2,853,000円
	文化	100万円	15件	9件	853,000円	

3 イベントの記録(協賛を含む)

年度	区分	イベント名	実施日	応募数	決定数	金額
21	スポーツ	「第28回全国ママさんバスケットボール交歓大会岡山大会」協賛	21.8.7~9	-	-	2万円
		「第2回倉敷国際少年野球大会」協賛	21.8.22~23	-	-	10万円
		「第57回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会」協賛	21.9.25~27	-	-	10万円
		「マルセン少年バレーボール教室」 山陽ふれあい体育館	21.10.18	-	85名	37万円
		「第28回山陽女子ロードレース」 協賛	21.12.23	-	-	105万円
	文化	「第5回沙美アートフェスタ」協賛	21.5.16	-	-	10万円
		「朝鮮王朝の絵画と日本」 チケットプレゼント	21.6.5~7.12	187通	200名	16.6万円
		絵はがき(写真コンテスト入賞作品) プレゼント	21.7.25~29募集	206通	150名	15.2万円
		論文募集	21.9.1~10.31募集	25点	7点	25.4万円
		岡山県文化連盟 「文化のつどい」	21.9.5/9.12	-	-	35万円
		「2009マーチング・イン・オカヤマ」 協賛	21.10.11~12	-	-	10万円
		(株)NHK文化センター 「アンデルセンinホテルオークラ岡山」 協賛	22.2.21	-	-	5万円
「悠久への回帰 高橋秀展」チケットプレゼント	22.3.5~4.4	178	100名	8.4万円		
20	スポーツ	「第31回岡山県少年剣道練成大会」協賛	20.6.7	-	-	10万円
		「第1回倉敷国際少年野球大会」協賛	20.8.23~24	-	-	10万円
		「第27回山陽女子ロードレース大会」協賛	20.12.23	-	-	105万円
		「マルセン少年陸上競技教室」開催	21.3.8	-	255名	32万円
		「第24回全国高等学校新体操選抜大会」協賛	21.3.26~28	-	-	10万円
	「第25回全国高等学校体操選抜大会」協賛	21.3.28~29	-	-	10万円	
文化	「第4回沙美アートフェスタ」協賛 「おかやま国際音楽祭2008」チケットプレゼント(成通グループ提供) 「岡山学びフェスタ2008」「マルセンバレーンアート教室」の開催 「おかやま子ども民俗芸能大会」協賛 岡山県文化連盟 「文化講演会」協賛 「マルセン写真コンテスト及び写真展」の開催	20.5.10 20.10.4 20.11.9 20.11.8 20.11.30/12.21 21.2.25~3.2	- 444 - - - 270点	- 100 220名 - - 36点	- - 7.4万円 10万円 35万円 30万円	
19	スポーツ	「第30回岡山県少年剣道練成大会」協賛	19.6.9	-	-	10万円
		「第26回山陽女子ロードレース大会」協賛	19.12.23	-	-	105万円
		「第56回備前市えびす駅伝競走大会」協賛	20.2.11	-	-	10万円
	文化	「マルセン少年サッカー教室」開催~湯郷Belleの選手を招いて~岡山ドーム	20.3. 8	-	207名	43万円
		「第3回沙美アートフェスタ」協賛 くらしきウィーク 2007 in Kansas City 協賛 岡山県文化連盟「文化講演会」協賛「書道」「美術」「シンポジウム」 第19回全国生涯学習フェスティバル 「まなびピア岡山2007」 「生涯学習見本市」へ出展 桃太郎アリーナ	19.5.12 19.7.25~8.1 19.9.9-15-23 19.11.2~6	- - - -	- - - -	10万円 10万円 35万円 48万円 県総合グランド 入場者 17万2千人
18	スポーツ	「第25回山陽女子ロードレース大会」協賛	18.12.23	-	-	105万円
		「第55回備前市えびす駅伝競走大会」協賛	19.2.11	-	-	10万円
	文化	「ポスト国体・フラワーロード事業」協賛	-	-	-	10万円
		「第2回沙美アートフェスタ」協賛 「川島 基ピアノリサイタル」開催 コミュニティライブラリーの開設	18.5.13 18.11.3 18.8.4~19.2.16	- 431通 -	- 200名 -	10万円 約40万円 -

事業の記録

年度	区分	イベント名	実施日	応募数	決定数	金額
17	スポーツ	岡山桃太郎アリーナ落成記念「オリンピックメダリスト体操競技演技会」協賛	17.6.5	-	-	21万円
		「第24回山陽女子ロードレース大会」協賛	17.12.23	-	-	105万円
		「第54回備前市えびす駅伝競走大会」協賛	18.2.11	-	-	10万円
	文化	松本和将「ベートーヴェン3大協奏曲のタベ」チケットプレゼント (岡山シンフォニーホール)	17.4.30	-	100名	30万円
		岡山デジタルミュージアム開館記念「新シルクロード展」チケットプレゼント	17.10.21~12.18	452件	100名	9万円
		「あそべる!おもちゃ展」協賛 (岡山デジタルミュージアム)	18.2.17~22	-	-	10万円
16	スポーツ	「第23回山陽女子ロードレース大会」協賛	16.12.23	-	-	105万円
	文化	岡山フィルハーモニック管弦楽団 第26回定期演奏会 チケットプレゼント	17.3.11	710件	100名	36万円

平成21年度 収支計算書

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位:円)

科目	予算額	決算額
I 事業活動収支の部		
1 事業活動収入		
基本財産運用収入	400,000	300,000
寄付金収入	14,000,000	3,170,000
雑収入	0	57
繰入金収入	0	10,000,000
事業活動収入計	14,400,000	13,470,057
2 事業活動支出		
事業費支出	11,800,000	9,770,697
管理費支出	2,600,000	269,505
繰入金支出	0	0
事業活動支出計	14,400,000	10,040,202
事業活動収支差額	0	3,429,855
II 投資活動収支の部		
1 投資活動収入	0	0
2 投資活動支出	0	0
投資活動収支差額	0	0
III 財務活動収支の部		
1 財務活動収入	0	0
2 財務活動支出	0	0
財務活動収支差額	0	0
IV 予備費支出		
当期収支差額	0	3,429,855
前期繰越収支差額	0	9,801,637
次期繰越収支差額	0	13,231,492

貸借対照表

(平成22年3月31日 現在)

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	3,918,685	3,720,669	198,016
未収金	17,943	17,662	281
仮払金	295,050	0	295,050
前払費用	26,250	0	26,250
立替金	9,142,334	11,628,149	△ 2,485,815
流動資産合計	13,400,262	15,366,480	△ 1,966,218
2 固定資産			
(1)基本財産			
	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(2)特定資産			
特定預金	10,000,000	15,000,000	△ 5,000,000
特定資産合計	10,000,000	15,000,000	△ 5,000,000
(3)その他固定資産			
その他固定資産合計	609,943	0	609,943
固定資産合計	110,609,943	115,000,000	△ 4,390,057
資産合計	124,010,205	130,366,480	△ 6,356,275
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	778,713	552,653	226,060
預り金	0	12,190	△ 12,190
流動負債合計	778,713	564,843	213,870
2 固定負債			
固定負債合計		0	0
負債合計	778,713	564,843	213,870
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
寄付金	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産合計	100,000,000	100,000,000	0
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	23,231,492	29,801,637	△ 7,180,088
正味財産合計	123,231,492	129,801,637	△ 7,180,088
負債及び正味財産合計	124,010,205	130,366,480	△ 6,966,218



ゆらり/諸星 美喜

平成22年度 マルセン7号
 発行日/平成23年3月
 発行所/財団法人マルセンスポーツ文化振興財団
 所在地/〒700-0023 岡山県岡山市北区駅前町1丁目2番4号
 電話/(086)800-0077 ファックス/(086)800-0055
 URL <http://www.marusen-zaidan.or.jp/>
 (本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています)